

第1回福井県児童科学館施設改善検討委員会 議事録

こども未来課

1 日 時 令和7年10月2日(木) 14時00分~16時15分

2 場 所 福井県児童科学館2階コミュニティルーム

3 出席者 別紙のとおり。

4 議 題

- (1) 「福井県児童科学館施設改善検討委員会」について
- (2) 福井県児童科学館の概要
- (3) 福井県児童科学館の現状と課題
- (4) 福井県児童科学館施設改善の主な論点に係る意見交換

5 配布資料 別紙のとおり。

6 議事概要

○ 議題説明

- (1) 「福井県児童科学館施設改善検討委員会」について
県 こども未来課(以下、「事務局」という。)より説明
- (2) 福井県児童科学館の概要
事務局より説明
- (3) 福井県児童科学館の現状と課題
事務局より説明
- (4) 福井県児童科学館施設改善の主な論点に係る意見交換
事務局より主な論点について説明

① 屋内遊具の改善について

(委員)

- ・来館者数がコロナ前後で減っており、コロナ禍を契機に遊びのオンライン化が進んでいく中で、どのように外の遊びに引き出すかを考えながら屋内遊具の改善が必要
- ・暑さ対策と関連して、屋外でできていたものを屋内でもできるようにするのも一案。福井は雨が多く湿気も多い。屋内での砂遊びなど、屋外機能を屋内で担保できるとよい。
- ・近年、日本でもオランダ発祥のスヌーズレーンルーム、リラックスルームといった、パニックになったこどもを落ち着かせる部屋を設置しているところもあり、静かなサイレントルームを設置することもよい。

- ・児童館なので、中高生の利用をどう進めていくか検討が必要。中高生向けの遊び場は少なく、屋内であれば防音室など、ダンスや音楽などの文化的な要素も含め中高生のニーズを満たす部屋を考えてもよい。

(委員)

- ・高学年以上をどこまでをターゲットにするかは、ゾーニングをしっかりとしないと身体の大きさが全然違う子どもたちが一緒に遊ぶことになり逆に危険。
- ・子どもたちが外で遊ばなくなってきたているが、一方で外の風や光、雨が降ってきたという環境の変化を感じることも大事であり、完全に屋内にするのではなく、半屋外といった環境を作ることも重要。大きな公園が目前にある環境を活かすべき。

(委員)

- ・小学校低学年は体を使って遊ぶため、発達を考える上でも体を使って遊べるものがたくさんあるとよいし、小学3年生から6年生ぐらいは知的好奇心が高まってくるので、宇宙・科学の展示があれば好奇心の高まりに応えられる。
- ・大人は、休日に子どもが楽しいと思う場所に連れていくが、大人はゆっくりしたいという気持ちがある。大人がゆっくりできて子どももワクワクするところは、館ではスペースシアターになる。スペースシアターにもっとお金をかけてほしい。スペースシアターが立派なものになると、大人も一度行ってみようと思う。
- ・館内は故障しているものが多く、寂しい気持ちになった。故障している物は使えるようにして、維持改善しながら運用していくべき。

(委員長)

- ・スペースシアターをはじめとする宇宙関係の施設・設備は目玉であり、大規模な改修をお願いしたい。重要なことは、維持管理ができるように対応していくこと。

② 屋外遊具の改善について

(委員)

- ・親が快適に飲食しながらゆっくり過ごせるかどうかが、子どもが楽しく自由に遊ぶ時間を引き延ばすことにつながるという点は世界的に共通している。
- ・屋外の休憩スペースをしっかり屋根付きにしていくことと、その時々の季節の快適を感じられるようにしていくとよい。
- ・木製の屋根は維持管理が困難。遊具は鉄製だと夏場暑くて使えないで避けるべき。ラバー系は湿気で滑りやすくなるから使えない。素材は管理しやすいものがよい。
- ・太陽と風の砦をちょっとした発表の場にするという改修は大賛成。遠足などでは、弁当、トイレ、振り返り学習の場所が必要であり、振り返りの場所として最適では。

(委員)

- ・夏場は原則屋外での活動が禁止となるような厳しい気候天候の中、これからの屋外のあり方をよく考えた上で、必要な施設を作るべき。
- ・一旦作ってしまうと維持管理が発生してくるので、どの部分に優先して投資するか、整備する上での考え方を整理しなければならない。

③ スペースシアターの改善について

(委員)

- ・演劇や音楽を流したり、暗さと音楽と香りを提供するイベントを実施するなど、様々な利用ができる環境を作ることが大事であり、それがそのまま館のブランドの中核となるポテンシャルを感じる。
- ・機器はメンテナンスが重要であり、ロングランを見越したメンテナンス計画を導入段階から取り入れて計画するべき。
- ・座席については、前列はフラットにしてソファ席にするなど、ユーティリティのある空間にするのも一案。よく寝れますという椅子を導入したことをPRする施設もある。没入できる空間づくりには、狭さは敵であり、運用人数を考えながら計画が必要

(委員)

- ・セーレンプラネットは、駅前で利便性が良いという意見もあるが、車社会の福井では、車で来られるエンゼルランドの方が良いという人もいる。どちらも良いものという中でエンゼルランドを選択できるよう、大人の心を動かすことが重要。

④ 休憩・飲食スペースについて

(委員)

- ・近隣に店舗ができているので、持ち込んで飲食できるスペースを充実させるのがよい。
- ・外遊びを知らない世代が多くなってくるので、屋内がリニューアルされると中の利用がさらに増えると想定されるため、屋内に飲食スペースを増やさなければ混雑を招く。

(委員)

- ・設備更新については賛成だが、休館のタイミングが課題。休館のタイミングはなかなかないので、建物全体の省エネ化を念頭に照明設備のほか、トイレなどの給排水管設備を含め、これを機会にどこまで建物全体を更新できるかという観点も踏まえて、次の30年に備えていくべき。

(委員長)

- ・建物の診断をしてもらって、どういった優先順位をつけて入れ替えていくかという仕組みもあると思うので検討いただきたい。

⑥ 館内設備の改善、安定した施設の運営について

(委員)

- ・前回の改修時にサインは見直したが、トイレは一階しか改修していない。館全体でトイレの数の整理などをする必要がある。ここ数年で改修した他県の科学館は、同時にトイレの改修も実施しており、トイレはニーズが高いので予算を組んでいるところが多い。
- ・少なくともトイレはおむつ替えスペースを男女両方に設置するとか、様々な形で検討してほしい。

(委員長)

- ・サイン計画は見直した方が良いと思うので、検討いただきたい。

(委員)

- ・ゆったりした空間、充実した展示など非常に魅力的であり、もっと効率的に使える。使い切れていないものを追求するだけでなく、アライアンスを一体化した未利用資源の活用を提案したい。
- ・神奈川県厚木市では、厚木市こども科学館の名前が、「神奈川工科大学厚木市こども科学館」になるなど、大学とアライアンスをとるだけでなくネーミングライツを活用している。施設レベルだけでなくアトラクションレベルでのネーミングライツもあり。
- ・スペースシアターはメインコンテンツ・キラーコンテンツだと思うが、どれだけ素晴らしいコンテンツは飽きられる。飽きさせないために、小さな挑戦を数打つことが大事。例えば、インターンシップに来た学生に考えてもらう、Instagramで発信してもらう、アライアンスを組んで連携先とともに新しいアイデアを考えいくなどの仕組みづくりが必要ではないか。
- ・幅広い年齢層に対応するためのゾーニングに関する意見が出たが、厚木では施設が狭くゾーニングをする面積がなかったこともあり、時間で分けている。料金設定にも関係するが、時間を分けて支払い能力がある人からもらう戦略もあり得る。

(委員)

- ・料金収入と来館者数の相関を見ると、屋外来場者が収入に影響している可能性がある。
- ・外に遊び方を教えられる人（プレワーカー）を配置することも重要。手作りで子どもの年齢に合わせた遊具を作れる方もいるので、季節や来場者のニーズに合わせて子どもたちと一緒に作るといったことも検討してみるとよいのではないか。

(事務局)

- ・利用料金収入と利用者の関係については、単価の高いスペースシアターの利用者が減つて、展示エリアの利用者が伸びたことが要因であると考えている。

以上